

地震防災の国際的な連携に関する当研究所の業務実績

大場 悟 ((財)日本開発構想研究所都市・地域研究部長)

東日本大震災以降、この震災の教訓を共有することにより世界の防災・減災・災害復興対策の向上につなげようという意図を持つ専門家(研究者や国際機関・政府機関・NGOの実務者等)の集う国際的な会合が、日本はもとより諸外国においても様々に開催されている*。

(独)建築研究所(BRI)及び(国法)政策研究大学院大学(GRIPS)も、「国際シンポジウム—巨大震災からの復興を考える—」(2012年2月21日、両機関共催、於東京)を開催したのに引き続き、「国際記念シンポジウム—命を守る地震津波防災の実現に向けて—」(2012年6月27日、ユネスコを含む三者共催、於東京)を開催することとなっており、(財)日本開発構想研究所は、これらのシンポジウムの開催支援業務を行っている。

日本開発構想研究所は、これらのシンポジウムのみならず、防災国際連携に関わる業務を2005年から実施してきている。それら一連の業務は、以下に示すとおり、基礎・実態情報の収集・分析から会議運営実務に亘る幅広いものである。

■開発途上国の住宅耐震化に関する文献収集、整理業務(2005年度、BRIから受託)

大規模地震の度に深刻な被害を被る開発途上国の住宅・建築物の地震被害軽減の実現には、①ハード技術(構造、材料、施工等)、ソフト技術(防災政策、広報普及等)に亘る総合的アプローチ、②対策実施主体である開発途上国の実情把握、③貴重な教訓である地震被害の実情理解——が欠かせないが、日本の学術研究機関には、これらの研究・情報の蓄積が十分でない。こうした認識から、本業務では、開発途上国の住宅耐震化に関する研究開発を実施する上での基礎資料を作成することを目的に、①開発途上国の居住特性を考慮した耐震対策に取り組む各国機関、国際機関、学会、民間企業等の活動についてのデータ収集、②収集データに基づく全体動向分析、③注目される各機関の取り組みについての詳細情報の収集・整理、④調査成果の国際ワークショップ(2005年10月12日、於筑波)での発表——を行った。

■途上国における地震防災政策の情報収集及び整理(2005年度、GRIPSから受託)

開発途上国における地震災害の被害軽減を推進するため、①開発途上国の防災政策、耐震補強技術等の情報収集及び比較分析、②貴重な教訓であるスマトラ沖地震を対象にしたインドネシアにおける地震・津波被害の整理・分析、現行工法の分析、改善の検討——を行うことを目的としてGRIPSが実施した研究を支援したものである。①世界的に普遍的な構造でありかつ耐震性の低い組積造の補強技術について研究蓄積の豊富な中南米を主対象とした文献の収集・翻訳・内容比較、②海外の研究協力者との連絡・調整——等を行った。

■「地震防災のための東京国際ワークショップ2006—住宅の被害軽減を目指して—」開催補助業務(2006年度、BRIから受託)

2006年11月22~23日開催の国際ワークショップ(WS)の実施を支援したものである。①開催準備支援(一部の配布資料作成や海外招聘者との連絡・調整を含む)、②WS当日の運営支援(資料準備、進行補助、会議録作成等)、③WS成果のとりまとめ(報告書作成、ホームページ掲載支援等)、④WSに付随して行われた視察・研修のアレンジメント支援——などを行った。

■技術の社会的な定着方策に関する研究開発補助業務、地震リスク認知に関する調査研究補助業務(2006~2008年度、GRIPSから受託)

GRIPSが並行実施したふたつの研究の実施を支援したものである。これらの研究は、住宅所有者、建設業者、行政関係者が地震リスクについてどのように認知しているかを把握することが、住宅の耐震工法を社会的に定着させていくための基礎的な知見を得る上で重要、という認識に立脚して行われた。①世界各地でのコミュニティ防災活動の成功事例の収集・整理、②アジア太平洋地域7カ国で行うアンケートの企画・集計・分析補助——等を行うことで、この研究の実施を支援した。

■地震防災のためのネットワーク型共同研究に関連する国際ワークショップ及び検討会の実施関連業務（2007～2008年度、BRIから受託）

アジア太平洋・中南米9国を対象とした国際共同研究（BRI・防災科学技術研究所、GRIPS、三重大学）で行われた複数の国際会合（2008年11月28～29日の「地震に強い住宅に関する国際シンポジウム」等）について、①開催準備、②開催当日の運営、③成果とりまとめ——を支援した。

■世界各国の建築物の耐震情報の収集、分析業務（2008～2009年度、BRIから受託）

2008年度は、開発途上国の耐震技術向上に関するBRIの研究開発の一助とすべく、建築物の耐震化に係る世界各国の基準や指針についての最新情報を収集する目的で、先進国・開発途上国計39カ国の耐震工学分野の研究者・技術者（BRI元研修生及び国際地震工学会各国代表）を対象に、Webアンケートを実施した。調査事項は、①建築物耐震基準、②既存建築物耐震診断指針、③既存建築物耐震補強指針、④地震直後の建築物の被災度判定指針、⑤地震マイクロゾーン・レポート——の有無及び内容概要についてである。

2009年度は、前年度のアンケート調査で得られた回答を基に、上記①～⑤に係る各国の具体的な文書の収集を行った。また、各国の耐震情報の整備状況と過去の地震被害等との関係性について、GISを用いた整理・分析を行った。

■国際シンポジウム運営支援業務（2011～12年度、GRIPSから受託）

2011年度は、2012年2月21日にBRIとGRIPSが共催した国際シンポジウム（図1参照）及び関連イベント（国際ビデオ会議、専門家会議、東北地方被災地調査）について、①開催準備、②当日の運営、③成果とりまとめ——の支援を行った。2012年度は、ユニセフ・BRI・GRIPSが共催する同年6月27日の国際シンポジウム（図2）について、同様の支援を実施している。

* 例えば、「東日本大震災に関する専門家会合～巨大津波災害の教訓に学ぶ～」(内閣府・国際協力機構・国連アジア太平洋経済社会委員会・アジア防災センター共催、2011年12月16～17日、於東京)、「東日本大震災国際シンポジウム：One Year after 2011 Great East Japan Earthquake」(日本地震工学会・日本建築学会・土木学会・地盤工学会・日本機械学会・日本地震学会主催、2012年3月3～4日、於東京)、「地震・津波災害軽減国際シンポジウム～東日本大震災の教訓を世界で共有するために～」(国際協力機構・科学技術振興機構・防災科学技術研究所共催、2012年3月14～15日、於仙台)等がある。

図1:「国際シンポジウムー巨大震災からの復興を考えるー」チラシ

国際シンポジウム - 巨大震災からの復興を考える -

2011年東日本大震災、2010年ハイチ地震、2008年四川地震、2004年スマトラ沖地震・津波災害、1995年阪神・淡路大震災等の地震・津波災害に関して、各国の専門家から発表を行います(第1セッション)。
コミュニティの再生、ジェンダー、安全な建物づくり、まちづくり、国際的な活動などの視点からのディスカッションを通して、国際社会で活用が期待できる復興への教訓を探ります(第2セッション)。

基調講演
「東日本大震災からの復興」

講演者：
東京大学大学院教授 日本学術会議会長
大西 隆 氏

開催日時：2012年2月21日(火) 13:00-17:20
会場：政策研究大学院大学 想海楼ホール
〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1

参加費：無料
使用言語：英語および日本語(同時通訳あり)
主催：建築研究所、政策研究大学院大学

参加申し込み方法：
以下の申込先に、「ご氏名」「ご所属」「ご連絡先」をご記載の上、メールまたはFAXにてお申し込み下さい。
事前のお申し込みが無い場合、当日の混雑状況によってはご参加いただけない場合がございますので、ご了承下さい。

参加申し込み・お問い合わせ先：
政策研究大学院大学 岡崎研究室
担当：李
E-mail: lee-aelim@grips.ac.jp
FAX: 03-6439-6010

*当日シンポジウムの状況を政策研究大学院大学HPで配信いたします。

プログラム

第1セッション 13:00-15:20

13:00 主催者挨拶
(独)建築研究所 理事 伊藤弘
政策研究大学院大学 政策研究センター長 森地茂

13:10 基調講演 東日本大震災からの復興
東京大学大学院 教授、日本学術会議 会長 大西隆

13:55 趣旨説明 近年の世界の巨大震災と復興の状況
(独)国際協力機構 国際協力専門員 橋府龍雄

14:10 巨大震災と復興についての各国からの報告

- 2010年 ハイチ地震災害
ハイチ公共事業・輸送・通信省 建物評価技術室技師 フリッツ・オブラン(ハイチ)
- 2008年 中国四川地震災害
北京師範大学 善基金公益研究院 院長 ワン・ツェンヤオ(中国)
- 2004年 スマトラ沖地震・津波災害
(調整中)インドネシア公共事業省 水道環境衛生訓練センター長 パンパン・スティアントモ(インドネシア)

15:10 地震の概要と特徴
(独)建築研究所 研究専門員 吉川龍雄

第2セッション 15:40-17:20

15:40 パネルディスカッション

1. 趣旨説明 復興・減災に関する論点提起
(独)建築研究所 国際地震工学センター長 安藤尚一
2. パネリストからの論点提起
-復興の実態：2005年カシミール地震の事例にみる
建築家、災害リスク管理者 カザラ・ナイーム(パキスタン)
-災害弱者、貧困削減の視点から
静岡大学 教授 池田恵子
-安全な建物づくり、まちづくり
(独)建築研究所 上席研究員 福山洋
-復旧を超えて：より安全な社会への復興の機会
(調整中)国連国際復興支援プラットフォーム
3. ディスカッション
4. 質疑応答

17:20 閉会挨拶
政策研究大学院大学 教授 岡崎健二

図2:「国際記念シンポジウムー命を守る地震津波防災の実現に向けてー」チラシ

国際記念シンポジウム 「命を守る地震津波防災の実現に向けて」

International Memorial Symposium "Protecting Lives from Earthquake and Tsunami Disasters"

日時：2012年6月27日[水]
午前10時から午後5時まで

会場：政策研究大学院大学
1階 想海楼ホール
(港区六本木7-22-1)

使用言語：英語および日本語(同時通訳あり)

主催：ユネスコ(UNESCO)、独立行政法人建築研究所(BRI)、政策研究大学院大学(GRIPS)
後援：国土交通省、日本ユネスコ国内委員会、外務省、JICA、読売新聞社(予定)

「お申し込み方法」
以下の申し込み先に「ご氏名」「ご所属」「ご連絡先」をご記載の上、メールまたはFAXにてお申し込みください。
※事前のお申し込みが無い場合、当日の混雑状況によっては、ご参加いただけない場合がございますので、ご了承下さい。
【お申し込み先・お問い合わせ先】
政策研究大学院大学 岡崎研究室(担当:黄) E-mail: phd09009@grips.ac.jp FAX: 03-6439-6010

国際記念シンポジウム 「命を守る地震津波防災の実現に向けて」

International Memorial Symposium "Protecting Lives from Earthquake and Tsunami Disasters"

プログラム ー2012年6月27日[水]

10:00 開会
-主催者挨拶
坂本 雄三 (独)建築研究所理事長
植川 恵市 政策研究大学院大学副学長
-来賓挨拶
井上 俊之 国土交通大臣官房審議官

10:20 基調講演1「地震学の未来」
尾池 和夫 (財)国際高等研究所長・前京都大学総長

11:10 基調講演2「地震津波防災におけるユネスコの役割と戦略」
バダヴィ・ルーバン ユネスコ科学部門自然災害ユニット部長

13:15 「命を守るー震災の教訓と今後の展望」(各25分)

- 「2015年以後の視点-災害軽減の実績と今後の課題」
サルバノ・プリセニョ IRDR 科学委員会委員長・前国連国際防災戦略事務局長
- 「都市の新たな脅威としての長周期地震動」
福藤 一 東京大学地震研究所教授
- 「インドネシアにおける耐震建築の普及戦略」
アニータ・フィルマンティ インドネシア人間居住研究所(RIHS)所長
- 「津波避難ビルの構造設計法」
福山 洋 (独)建築研究所構造研究グループ長
- 「地震工学分野の調査研究協力ーヨーロッパのSAFECASTプロジェクト」
ファルク・カドアン トルコ・イスタンブール工科大学(IITU)教授・前学長

15:40 パネルディスカッション：「命を守る地震防災国際協力」(75分)

- モデレータ
ユネスコ バダヴィ・ルーバン ユネスコ科学部門自然災害ユニット部長
- パネリスト
チリ ラウル・アルバレス チリ カトリカ大学教授
エジプト サラ・ムハンマド エジプト国立天文地球物理学研究所長
ペルー カルロス・サバラ 日本・ペルー地盤防災センター(CISMID)所長
ルーマニア ラドゥ・バカロヌ ルーマニア 独立ブカレスト工科大学(UTCB)副学長
日本 岡崎 健二 政策研究大学院大学教授

16:55 閉会
-閉会挨拶
西山 功 (独)建築研究所理事

使用言語：英語および日本語(同時通訳あり)

主催：ユネスコ(UNESCO)、独立行政法人建築研究所(BRI)、政策研究大学院大学(GRIPS)